

令和7年度 第1回 四街道市文化財審議会会議録

日 時 令和7年6月30日（月）午前10時～午前12時10分

場 所 四街道市役所第二庁舎 第2会議室

出席委員 中野照男 委員 鈴木満壽男 委員 西山太郎 委員
渡邊修一 委員 芝崎浩平 委員 小林裕美 委員 中村政弘 委員

欠席委員 1人

事務局 仲田鋼太 課長 小林大伸 係長 三宅慶 主任主事

傍聴人 0人

—— 会議次第 ——

1 開 会

2 議 題

- ① 令和6年度事業報告について
- ② 令和7年度事業予定について
- ③ 市指定文化財候補（考古資料）の検討について

3 閉 会

2. 議題

中野 会長 : 会議次第2議題①「令和6年度事業報告」について、事務局からの説明をお願いします。

小林 係長 : それでは、会議次第2議題①「令和6年度事業報告」について、事務局より説明させていただきます。

《事務局より説明》

中野 会長 : 只今の事務局の事業報告について、委員の皆様、ご意見・ご質問等ございますか。

中野 会長 : 昨年度末の審議会でも、令和6年度の事業内容についてご報告いただきましたが、変更点はありますか。

三宅主任主事 : 大きな変更点は有りません。文化財調査と金属製品の保存処理に関して、追加資料を配付しています。

中野 会長 : 文化財調査について、よろしいでしょうか。八木原貝塚出土の赤色顔料付着土偶の分析について、粘着テープでのサンプリングは文化財を破壊する行為とみなされる可能性があるのではないのでしょうか。科学的な見地から、この手法の妥当性について説明してください。文化財のサンプリングは非常に慎重に行うべきであり、安易にこの手法が広まることには懸念があります。例えば、国指定のものについては、非破壊が原則です。

三宅主任主事 : ご指摘の通り、サンプリングには細心の注意が必要です。今回配付したガイドブックでは、この手法は文化財への損傷を最小限に抑えるためのものとして紹介されています。また、今回分析対象となった土偶はまだ市指定文化財ではなく、指定に向けて価値評価の材料とするために、より詳細な情報を得る必要がありました。これらの点を総合的に判断し、今回の分析手法を選択したものと思われま

中野 会長 : 私が専門とする美術史では、ほぼサンプリングはできません。考古資料を専門とする方々はどうなのでしょう。サンプリングは一般的なのでしょう。時にはサンプリングする例外は私も認めています。

三宅主任主事 : 考古資料では、指定された資料でなければ、必要に応じてサンプリングをする場合があります。例えば、薄片を作成し土器の胎土分析に用いられることがあります。

中野 会長 : 市文化センター内に設置予定の新しい歴史民俗資料室についていくつか質問があります。まず、1階から2階に変更になったことは良かったと思いますが、資料室を出て、一般利用施設がすぐ隣、すぐ前にあります。これは、人の流れ、動線として、市の展示施設としての独立性がどれくらい担保できるのでしょうか。2つ目は施設に出入りするドアが多いことです。そのドアをどういうふうにするのか、案は固まっているのでしょうか。3つ目は、バックヤードが設けられていますが、この展示施設に一時的に資料を収蔵するようなスペースがないということですね。このバックヤードで資料の一時保管がどれくらい、保証されているのでしょうか。最後に空調についても気がかりです。図面だけではわからないこ

とが多くあります。まだ進行中でしょうから、今すぐ全部検討してくれとは申しませんが、そこら辺の計画について、順次知らせていただきたいと思います。

三宅主任主事 : 展示施設の独立性という面では、やはり複合施設内に設置するため、完全には確保できません。もちろん、資料の安全性を保つため、施錠可能なドアを設置します。むしろ複合施設内に設置するため、会議室の利用のためにきた、専門的な関心がない市民にも気軽にみてもらえるというメリットがあります。防犯性については、台数は未定ですが防犯カメラを設置する予定です。空調については、24時間稼働させることは可能ということですが、展示予定資料の性質上、今のところは考えていません。ただし、開館中は一定の温度を保つ予定です。また、金属製品の展示については一部エアタイト展示ケースの導入を検討しています。

中野 会長 : 展示資料は、全て展示ケース内に入れることを想定していますか。

三宅主任主事 : 全ての資料は、施錠可能な展示ケースに入れる予定です。

仲田 課長 : 一部補足します。以前は単独で、資料館を設置することを検討していましたが、市長が変わったことにより、計画が変更になりました。理由としては、市長の文化センターを市の文化の拠点にしたいという意見を反映しています。独立した施設ではなく複合施設内に設置することで、専門的な関心がない市民にも気軽に歴史に触れてもらう機会を増やす狙いがあります。また、1階で検討していたものが2階になったのは市民会議に参加した市民の方々の意見を反映しています。ご指摘の課題については、現在、設計事務所や専門家と協議を進めています。防犯カメラの設置や、独立した空調システムの導入、密閉性の高い展示ケースの採用などを検討しており、資料の安全確保には万全を期す考えです。

中野 会長 : 文化財を展示するので、安易な展示は避けてもらいたい。博物館施設と同等のものを担保してほしいとは言いませんが、資料の安全性を担保できるよう展示ケースや空調に配慮していただければと思います。また、ふるさと納税の寄付金を募っていると思いますが、この施設の整備にどのように使われるのでしょうか。

仲田 課長 : 当初は単独館の建設費用として募っていましたが、計画変更に伴い、現在は文化センター内の展示施設整備のための費用の一部として活用させていただく方向で調整しています。最終的には、目標額が1億5000万円ですが、集まらなくても費用として当てていく予定です。

中野 会長 : これまで寄付していただいた、思いを裏切らないように対応していただければと思います。

芝崎 委員 : 常設展示室は遮光していると思うのですが、ラウンジに設置予定の企画展示スペースはどうなのでしょう。

三宅主任主事 : ラウンジの企画展示スペースは、全体を壁で覆うわけではなく、現在ある壁側に1台展示ケースを設置するような形になる予定です。元々、日差しが差し込む構造ではないので、特に問題はないと考えています。

芝崎 委員 : ふるさと寄付の関係ですが、寄付者の氏名をデジタルサイネージ等で流すなどデジタル技術を有効に活用するといったと思います。

三宅主任主事 : デジタル技術を活用していく話は、事業者とも協議中ですので、引き続き検討していきたいと思います。

芝崎 委員 : 今後、燻蒸も必要になってくると思います。このバックヤードで出来るかはわかりませんが、検討をお願いします。

三宅主任主事 : 燻蒸についても、検討していきます

西山 委員 : 常駐の職員は配置されるのでしょうか。

三宅主任主事 : 職員の配置体制については、まだ検討段階です。ボランティアの活用なども含め、今後の運営計画の中で具体化していきます。

西山 委員 : 寄付は継続するのでしょうか。

仲田 課長 : 今年度は継続していますが、今後は終了する見込みです。いつ終了するかは、寄付を担当している担当課と協議の上、決めていきます。

小林 委員 : 展示案は、よくある通史展示だと思うのですが、限られたスペースでその通史展示が一般の市民の方に魅力的に映るかどうかというところを、もう少し考えていただければと思います。四街道のこれをアピールしたいなど。国指定とか県指定の文化財もあんまりない状況なので、なおさら何か哲学的なものがあつたらいいと思います。通史でも、地理的環境に焦点をあてるなどもう一工夫、アピールするものを造っていただけると、より多くの方々に楽しんでもらえると思います。また、軍隊の面もマイナスの面のみでとらえるのではなく、四街道の特徴の一つだと思いますので、そういった側面も伝えられる展示になるといいと思います

三宅主任主事 : 地域に根差した、通史展示ですが、デジタル技術等も導入していきながら、新しい展示になるよう検討していきます。

中野 会長 : 何度も議論になっているが、展示スペースもさることながら、市が所有する多くの文化財を適切に保管するための収蔵庫の確保が最も重要だと思います。この点について、市として真剣に考えてほしい。

三宅主任主事 : 収蔵庫については、引き続き検討していきます。

中野 会長 : 会議次第2議題②「令和7年度事業予定」について、事務局からの説明をお願いします。

小林 係長 : それでは、会議次第2議題②「令和7年度事業報告」について、事務局より説明させていただきます。

《事務局より説明》

芝崎 委員 : 戦中・戦後の企画展の開始が9月となっているが、終戦記念日がある8月に合わせた方が良くないのでしょうか。

三宅主任主事 : 時期については、主に資料整理を行う職員の作業環境を考慮した結果です。夏場のプレハブでの作業は熱中症のリスクが高く、健康面を配慮し9月開始としました。しかし、ご指摘の通り8月開催の意義も大きいため、前倒しが可能か再度検討いたします。

- 芝崎 委員 : どういった年齢の方に見てもらいたいのかも考えるといいと思います。
- 三宅主任主事 : 8月ですと児童生徒は夏休みですので、9月に開催するよりは見てもらえる可能性が高いと思うので、やはり、8月開催ができるように作業を進めたいと思います。
- 中野 会長 : 展示資料については、決まっているのでしょうか。
- 三宅主任主事 : 戦時中の砲弾や、戦後の国民服など既に決まっています。
- 渡邊 委員 : 埋蔵文化財発掘調査事業についてですが、市内遺跡の調査日程は決まっているのでしょうか。
- 三宅主任主事 : 調査日程は未定です。依頼があり次第、順次実施していく予定です。
- 渡邊 委員 : 件数が少なければ、古墳広場の古墳の調査を検討してはどうでしょうか。
- 三宅主任主事 : 既に公園となっているので、地中探査などの発掘調査以外の方法を検討していきたいと考えております。
- 中野 会長 : 会議次第2議題③「市指定文化財候補（考古資料）の検討」について、事務局からの説明をお願いします。
- 小林 係長 : それでは、会議次第議題③「市指定文化財候補（考古資料）の検討」について、事務局より説明させていただきます。

《事務局より説明》

- 中野 会長 : 今回の候補は考古資料だが、市には他にも指定すべき無形文化財や天然記念物などが存在するはずです。近年、これらの分野の候補が挙がってきていません。過去の審議会で検討されたリストなどを再確認し、今後の候補として計画的にリストアップしていくべきではないでしょうか。また、今後、審議委員を増やすことは検討していますか。
- 三宅主任主事 : ご指摘の通りです。過去の議事録などを確認し、今後の指定候補の検討を進めます。審議委員の人数についてですが、予算の都合上、増やすことは検討しておりません。現在の審議委員の方の専門外の文化財を指定する場合は、文化財調査費がありますので、そちらで調査・研究を行うつもりです。
- 中村 委員 : 大日の開拓資料館の資料の一部を市指定文化財にするという話を聞いたことがあります。また、現在は、開拓資料館が無くなってしまったのはごぞんじでしょうか。
- 中野 会長 : 開拓資料館は、以前、審議委員であった遠藤氏が管理しており、生前は寄贈していただく方向で話が進んでいました。しかし、遠藤氏が無くなられたあとは、寄贈に関して、上手く調整が出来なかったと記憶しています。
- 鈴木 委員 : 市の指定文化財になり得るものをしっかりと我々に提案してもらえればと思います。
- 三宅主任主事 : 承知しました。

中野 会長 ：以上で、本日の議題はすべて終了しました。議事の進行を事務局に返させていただきます。

小林 係長 ：以上をもちまして、令和7年度第1回四街道市文化財審議会を終了します。本日はありがとうございました。

会議録署名人 小林 裕美
会議録署名人 中村 政弘